

近江人

2014年11月22日

読売新聞
（滋賀版）

自立へ親身に手ほどき

草津市のビルの教室で、「しちさんにじゅういち」など九九の数式にふりがなの付いたカードを手に、子どもたちが音読する。同じ数字に複数の読み方があり、「かける」「くが」など式の説明は省かれたり残ったり。発達障害があると、こうした融通をきかせた表現には迷うことが多いからだ。

発達障害を抱える子どもらの塾「アットスクール」社長

鈴木 正樹さん 46



中学生の講座でアドバイスする鈴木さん（右、草津市のアットスクールで）

（LD）……。それぞれに特徴があり、併せ持っていることもある。公立小中学生では、すでに児童生徒の6・5%に関係する可能性が指摘される。

独立し草津で教室

会社に支援サービスを提案するも実現せず、2005年に独立、草津市で教室を開いた。初めはなかなか塾生が集まらず、居酒屋のアルバイトなどを掛け持ちしてしのぐことが続いた。

検査などで特性を把握してから個別に学習計画を立て、保護者、学校などと協力する親身な指導はやがて、親の口コミで広まった。09年には大阪にも開校、現在、約350人が利用する。つまぎやすいポイントに工夫を重ねたノートなど、大阪医科大LDセンターと共同開発している。

先日、元塾生の男性に再会した。中学では不登校で苦しんだが、通信制の高校を終え、家電量販店の主任にまでなっていた。「自分の決断は間違ってたなかった」と自信を深めた。「人は十人十色。将来を考えて不安になるかもしれないが、大丈夫。可能性を信じましょう」と力を込めた。

（生田ちひろ）



発達障害のサポートなどについて話す鈴木さん（草津市のアットスクールで）

不登校になることも少なくない子どもたちに、一人ひとり、幼児から高校生まで、学校や家庭以外の民間からどんな手助けができるか、懸命に模索する日々を送る。鈴木さんも元々、発達障害に関する知識はなく、「不登校は単なる甘えと思っていた」。アパレル

1967年、静岡県生まれ。中央大文学部卒。私立高講師やアパレル商社での社員教育などに携わり、家庭教師派遣会社を経て、2005年に草津市で「アットスクール」を開校。教育カウンセラーなどの資格を持ち、教室での学習や個別指導、発達支援のほか、人との接し方といったソーシャルスキルなども指導する。

商社で販売員教育から、家庭教師派遣会社に転職した時だった。大津市で主に受験や進学指導を担当したが、いじめや学業不振で不登校になったという相談が少なくなかった。

話を聞くと、本人はむしろ学校に行きたいし、勉強も理解しようと思死だった。「なぜうまくいかないのだろう」。休日を利用して勉強会や学会に参加するうち、発達障害に行き当たった。

対人関係などに障害を抱えるアスペルガー症候群などの広汎性発達障害、集中力が持続しにくい注意欠陥・多動性障害（ADHD）、読み書きや計算が苦手な学習障害